

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## 瀨州方言の音声・音韻体系について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 張, 玲 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2676">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2676</a>

# 瀘州方言の音声・音韻体系について<sup>1</sup>

張玲

## 提要

本文是关于四川泸州方言音系的观察描写。泸州方言隶属于汉语北方方言西南官话的灌赤小片，通行于四川泸州市的江阳区、泸县北部、龙马潭区。作为汉语方言的次方言，泸州方言的研究成果并不多。李国正（1997）是唯一一部关于泸州方言的专著。该书基于 80 年代方言调查进行描写，着重于与汉语中古音做对比。在此背景下，笔者通过对现今泸州方言的调查，重新对泸州方言的音系进行描写。

本文对泸州方言的描写主要有两方面：首先分析泸州方言单字音的语音结构，初步确定方言音系；其次，针对泸州方言中的中古入声调类字的实际音值特征进行描写分析。李（1997）等指出泸州方言有五个声调，中古时期的入声字在泸州方言中独立成调，但本文通过分析发现入声调类字元音的音值与非入声调类字并不相同。本文在对入声调类字的实际音值情况进行详细描写的基础上，将入声调类字的实际音值特点总结为以下三点：元音央化、开前不圆唇元音/a/高化、舌尖前音的卷舌音遗留。

## 1. はじめに

本稿は現代漢語の瀘州方言の音声及び音韻体系について共時的に記述したものである。瀘州方言は瀘州の市街地の江陽区、龍馬潭区、及び瀘県の南側において使用される言語で、西南官話の下位方言として位置づけられている。典型的な特徴は北方方言によく見られるそり舌音と非そり舌音の対立がない点や、中古入声字を独立した声調とし、合計で五種類の声調を有する点などがあげられる。本稿では筆者の収集したデータに基づいて、瀘州方言の音韻体系を新たに考察し、声調における分節音の音声実現について、幾つかの現象を取り上げる。本論に入る前に、まずは本節で瀘州の概況及び瀘州方言の位置付け、先行

---

<sup>1</sup> 本稿は下記の二つの研究会・学会の口頭発表をもとに加筆・修正を加えたものである。「瀘州方言の音韻体系」チベット＝ビルマ言語学研究会第 51 回会合(神戸市外国語大学オンライン, 2020 年 12 月 13 日); 〈四川泸州方言的入声音值问题〉The 54th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics(第 54 届国际汉藏语言暨语言学会议, 2021 年 10 月 29 日, 中国西南交通大学 VOOV)。発表の際、貴重なご助言をくださった先生方に心より感謝申し上げます。

研究に存在する問題などについて述べる。

### 1.1 瀘州の概況<sup>2</sup>

瀘州市は四川省の東南部に位置する。東は重慶市と貴州省に接し、南は貴州省に隣接し、西南は雲南省に隣接する。西は四川省の宜賓市と自貢市に隣接し、北は内江市と重慶市に隣接する。全境の面積は1.22万平方キロメートルである。

瀘州はかつては「江陽」と称し、2000年前まで遡ることができる悠久の歴史を持つ都市である。1983年3月3日、中国国务院の指示によって、瀘州市は省轄市として成立し、市中区、瀘県、納溪区、合江県を瀘州市に帰属した。1985年6月、古蔺県と叙永県は新たに瀘州市の管轄下となった。1996年7月1日、瀘州市行政区画調整が行なわれ、江陽区、龍馬潭区、納溪区と瀘県、合江県、叙永県、古蔺県の3区4県が確定した。2021年末の瀘州市公安戸籍の登録情報では、登録世帯数は159.1万世帯であり、戸籍内の人口数は506.73万人となっている。

### 1.2 瀘州方言の位置付け

瀘州方言の位置付けを議論する前に、簡単に四川方言の概況について述べたい。

四川省内で使用されている官話方言は主に西南官話の「灌赤片」と「成渝片」である（中国社会科学院(編)《中国语言地图集》1988, 以下《中国语言地图集》1988)。周及徐(2012)などによれば、四川方言は大きく「南路話」と「湖広話」の二つのタイプに分類することができる。

「湖広話」という名称は成都と重慶などの地域に使用する方言の俗称である。「湖広話」は万州の西から成都、岷江の東の地域を中心に分布している。地理的には、岷江の西南部および沱江と岷江の間の地域を除く範囲に分布する。「湖広話」は四川盆地全体をカバーし、《中国语言地图集》(1988)の「西南官話成渝片」に相当する。典型的な特徴は四つの声調を持ち、中古音の入声は陽平に変化する点である。このほか、声母のそり舌音と非そり舌音の対立はなく、齒茎鼻音声母/n/と齒茎側面接近音声母/l/は区別しない、などの特徴を持っている(周及徐 2012)。

「南路話」は四川省内に使用されているもう一種の方言の俗称である。「南路話」は岷江の西側と南側、特に成都西南の都江堰、温江、崇州、大邑、邛崃、

<sup>2</sup> この部分は主に瀘州市人民政府ホームページ (<http://www.luzhou.gov.cn/sq/zj/zxqzh>) を参考した。

浦江、新津などの地域で話される方言を指す。音声・語彙ともに、いずれも独特の特徴を持っている。音声面では中古音の入声が独立の声調となる点が「湖広話」との最も大きな違いである。この特徴はさらに広い地域で観察される。岷江の西に沿って、樂山、宜賓、瀘州と現在の重慶の一部地域で話される方言もこの特徴を持っている。いわゆる《中国语言地图集》(1988)の「西南官話灌赤片」の「岷江小片」に相当する(周及徐 2012)。

《中国语言地图集》(1988)によれば、瀘州方言は西南官話の「灌赤片」の「岷江小片」に分類され、典型的な特徴は[ts, tsh, s]と[tʂ, tʂh, ʂ]の対立がなく、中古漢語の精莊知章四組の字は一般的に[ts, tsh, s]で実現する。

陈千百(2009: 54)によれば、瀘州地方で使用されている方言は二つのタイプに分けることが可能である。瀘県の北側の太田、嘉明、喻寺と古蔺県の太平、大村、龍山、觀文、石宝、丹桂などの町村が用いる方音は、四川方言の「灌赤片」の「仁富小片」に属する。その典型的な特徴は中古音の入声は去声になり、そり舌音と非そり舌音の対立が存在していることである。それ以外の地方で用いられる方音は四川方言の「灌赤片」の「岷江小片」に属し、典型的な特徴として中古漢語の入声字が単独の声調として保持され、そり舌音の対立はないと述べている。

本研究で記述する瀘州方言は瀘州の市街地の江陽区、龍馬潭区、及び瀘県の南側に用いる方言である。いわゆる「灌赤片」の「岷江小片」に分類されているタイプである。

### 1.3 先行研究

瀘州方言に関する先行研究は、他の言語の研究と比べて、数は少ない。以下は本稿と関わる主要な先行研究を紹介する。

目下入手できる最も古い資料は、四川方言調査工作指導組(1960)が公表している《四川方言音系》(以下『音系』)である。『音系』は瀘州方言に関する声母、韻母及び声調を記述している。瀘州方言の声母は零声母(zero initial)を含めて20種、韻母が41種、声調に5種が存在すると述べている。

そして、李國正氏が1997年に出版した《四川瀘州方言研究》がある。この研究は瀘州方言の音韻を中心に、語彙と文法に対する記述も行なっている。李(1997)では、漢語の「普通話」と中古音を用い、比較しながら、瀘州方言の音韻特徴を述べている。また、語彙と文法について、漢語の「普通話」に基づき、対照しながら記述している。そのうち、単字音表、語彙表、諺の資料を掲載している。李(1997)によれば、瀘州方言の基礎的な音韻体系における、声母は20種で、韻母は37種である。

このほか、陈千百（2009）の《四川泸州方言音概述》は瀘州方言の声母、韻母、声調、音変化について述べている。陈千百の記述によれば、声母は20種で、韻母は37種、声調は5種ある。1998年に出版された《泸州市志》にも瀘州方言に対する記述があり、声母は19種、韻母は41種、声調は5種を持つと述べられている。

上記の先行研究はいずれも瀘州方言の音韻体系について、記述している。以下表1に整理する。

表1: 先行研究における瀘州方言の音韻体系

	声母	韻母	声調
『音系』	20	41	5
李国正	20	37	5
《泸州市志》	19	41	5
陈千百	20	37	5

表1にまとめたように、瀘州方言の音韻体系について、先行研究の意見は一致していない。特に韻母において、数が異なる。第5声調を用いる漢字の音声実現は他の4つの声調と比べると、明らかに異なると考えられる。先行研究において声母と韻母の数が異なる理由は、第5声調と関係している。

#### 1.4 本稿のデータ

本稿が使用している瀘州方言のデータは2019年3月に現地調査で収集したデータと筆者自身の発音を参考にしたものである。筆者本人、及び筆者の家族は全員瀘州の出身者で、日常会話は全て瀘州方言を用いている。現地調査のデータは中国社会科学院語言研究所が編集し、商務印書館が出版した《方言調査字表（修訂本）》<sup>3</sup>に基づいて、収集したものである。

## 2. 瀘州方言の音韻体系

本節では瀘州方言の音声・音韻に関わる記述を共時的に行う。2.1節は音節構造を提示する。2.2節では瀘州方言の頭子音と末子音について、それぞれ説明する。2.3節では母音について説明する。2.4節では声調について述べる。

<sup>3</sup> 『字表』は3700字ぐらいあり、広韻に従って、声母、韻母、声調の順で並べられている。ただし、一部の字は現代の常用字ではないため、コンサルタントが字を読めない場合、その字は調査項目から削除している。口語で常に用いられるが、漢字が確定できない場合、口語音を今回は扱っている。

## 2.1 音節構造

瀘州方言の音節構造について、下記のように表記することができる。

$$\sigma=(C_1)V_1(V_2)(V_3)(C_2)/T$$

C は子音、V は母音、T は声調である。瀘州方言で必ずしもすべての要素が現れるわけではない。また、母音始まりの音節も存在する。

## 2.2 子音

### 2.2.1 子音音素

瀘州方言の子音音素は下記のとおりである。

表 2: 子音音素一覧

	両唇音	唇歯音	歯茎音	歯茎硬口蓋音	軟口蓋音
破裂音	p p <sup>h</sup>		t t <sup>h</sup>		k k <sup>h</sup>
鼻音	m		n		ŋ
摩擦音		f	s z		x
破擦音			ts ts <sup>h</sup>	tɕ tɕ <sup>h</sup>	

瀘州方言には 17 種の子音が存在する。音節構造の各スロットに入る具体的な子音、及び調音における注意点は以下で述べる。

### 2.2.2 C<sub>1</sub> (頭子音)

瀘州方言の頭子音に関して、表 2 のすべての子音が入りうる。具体的音価は以下の通りである。

破裂音: /p/ [p], /p<sup>h</sup>/ [p<sup>h</sup>], /t/ [t], /t<sup>h</sup>/ [t<sup>h</sup>], /k/ [k], /k<sup>h</sup>/ [k<sup>h</sup>] である。他の漢語北方方言と同様に、有声音と無声音の対立が存在しない。無声有気音と無声無気音の対立がある。

破擦音: /ts/ [ts], /tsh/ [tsh], /tɕ/ [tɕ], /tɕh/ [tɕh] である。無声有気音と無声無気音の対立がある。/ts/ と /tsh/ に関して、声調は 23 調及び後続する母音は /-i/ と /-u/ の場合には、音声的に /ts/ が [tɕ], /tsh/ が [tɕh] として実現する。

鼻音: /m/ [m], /n/ [n], /ŋ/ [ŋ] である。/n/ について、後続する母音 V<sub>1</sub> が [i] と [u], つ

まり狭母音と結合する場合、[l]として音声的に実現することがある。それ以外について、[n]と[l]は自由変異である。音節初頭において[n]と[l]が弁別的でないが、音節末の状況を踏まえ、音素としては/n/を立てる。ŋ/は/i/, /y/が後続する際、[ŋ]として音声的に実現する。

摩擦音は四つある。具体的には/f, s, z, x/である。それぞれ基本的には、/f/ [f], /s/ [s], /z/ [z], /x/ [x]の音価を持つが、後続する母音や声調などの環境によっては異なる音価を持つ。歯茎摩擦音の/s/と/z/について、声調は23調の場合、後続する母音は-/i/と-/u/の場合には、音声的に/s/は[s̥]として、/z/は[z̥]として実現する。軟口蓋摩擦音の/x/について、後続する母音 V<sub>1</sub>は/i/, /y/の場合では、音声的に[e̥]として実現する。それ以外の場合は、/x/として実現する。また、声調は23調の場合、後続する母音-/u/の場合には、音声的にも[e̥]として実現する。

以下、各頭子音について例を掲げよう(以下、< >内は瀘州方言の漢字を表す、対応する漢字が無い場合は省略する。「 」内は日本語訳である。)

### [破裂音]

/p/:	/pa <sup>35</sup> / [pa <sup>35</sup> ] <爬> 「登る」	/pu <sup>21</sup> / [pu <sup>21</sup> ] <布> 「布」
	/pin <sup>53</sup> / [pin <sup>53</sup> ] <丙> 「丙」	/pu <sup>23</sup> / [pu <sup>23</sup> ] <不> 「否定」
/ph/:	/pha <sup>35</sup> / [p <sup>h</sup> a <sup>35</sup> ] <吧> 「柔らかい」	/pho <sup>35</sup> / [p <sup>h</sup> o <sup>35</sup> ] <坡> 「坂」
	/phau <sup>53</sup> / [p <sup>h</sup> au <sup>53</sup> ] <跑> 「走る」	/phin <sup>31</sup> / [p <sup>h</sup> in <sup>31</sup> ] <平> 「平」
/t/:	/tu <sup>35</sup> / [tu <sup>35</sup> ] <都> 「みやこ」	/tai <sup>21</sup> / [tai <sup>21</sup> ] <代> 「代わり」
	/tau <sup>35</sup> / [tau <sup>35</sup> ] <刀> 「ナイフ」	/tan <sup>21</sup> / [tan <sup>21</sup> ] <蛋> 「卵」
/th/:	/the <sup>23</sup> / [t <sup>h</sup> e <sup>23</sup> ] <特> 「特」	/thi <sup>35</sup> / [t <sup>h</sup> i <sup>35</sup> ] <梯> 「階段」
	/thu <sup>31</sup> / [t <sup>h</sup> u <sup>31</sup> ] <图> 「図」	/than <sup>21</sup> / [t <sup>h</sup> an <sup>21</sup> ] 「紹介する」
/k/:	/ka <sup>35</sup> / [ka <sup>35</sup> ] 「みかん」	/ko <sup>35</sup> / [ko <sup>35</sup> ] <锅> 「鍋」
	/ke <sup>23</sup> / [k <sup>ə</sup> . <sup>23</sup> ] <格> 「枠」	/kau <sup>35</sup> / [kau <sup>35</sup> ] <高> 「高い」
/kh/:	/khau <sup>35</sup> / [k <sup>h</sup> au <sup>35</sup> ] <敲> 「叩く」	/kho <sup>35</sup> / [k <sup>h</sup> o <sup>35</sup> ] 「置く」
	/khua <sup>35</sup> / [k <sup>h</sup> ua <sup>35</sup> ] <夸> 「褒める」	/khe <sup>23</sup> / [k <sup>h</sup> e <sup>23</sup> ] <克> 「グラム」

### [摩擦音]

/ts/:	/tsua <sup>35</sup> / [tsua <sup>35</sup> ] <抓> 「つかむ」	/tsi <sup>35</sup> / [tsi <sup>35</sup> ] <知> 「知る」
	/tsi <sup>23</sup> / [ts̥i <sup>23</sup> ] <直> 「まっすぐ」	/tsu <sup>23</sup> / [ts̥u <sup>23</sup> ] <竹> 「竹」
/tsh/:	/tshu <sup>35</sup> / [tshu <sup>35</sup> ] <初> 「はつ」	/tshu <sup>23</sup> / [tsh̥u <sup>23</sup> ] <出> 「出る」
	/tshuan <sup>35</sup> / [tsh̥uan <sup>35</sup> ] <穿> 「着る」	/tshan <sup>35</sup> / [tsh̥an <sup>35</sup> ] <餐> 「食事」
/te/:	/tei <sup>53</sup> / [tei <sup>53</sup> ] <姐> 「姉」	/teia <sup>35</sup> / [teia <sup>35</sup> ] <家> 「家」
	/teian <sup>35</sup> / [teian <sup>35</sup> ] <煎> 「煎る」	/teie <sup>23</sup> / [teie <sup>23</sup> ] <节> 「祝祭日」
/teh/:	/tehi <sup>35</sup> / [tehi <sup>35</sup> ] 「食べる」	/tehiou <sup>35</sup> / [tehiou <sup>35</sup> ] <秋> 「秋」

/tehian<sup>21</sup>/ [t<sup>h</sup>ejən<sup>21</sup>] <欠> 「欠ける」 /tehia<sup>23</sup>/ [t<sup>h</sup>ɛiæ<sup>23</sup>] <恰> 「ちょうど」

### 【鼻音】

/m/: /ma<sup>53</sup>/ [ma<sup>53</sup>] <马> 「馬」 /mi<sup>31</sup>/ [mi<sup>31</sup>] <迷> 「迷う」  
 /mo<sup>35</sup>/ [mo<sup>35</sup>] <摸> 「触る」 /me<sup>21</sup>/ [mei<sup>21</sup>] <妹> 「いもと」  
 /n/: /nai<sup>35</sup>/ [nai<sup>35</sup>] <奶> 「乳」 /nu<sup>21</sup>/ [lu<sup>21</sup>] <路> 「道路」  
 /naŋ<sup>31</sup>/ [naŋ<sup>31</sup>] <狼> 「狼」 /ni<sup>53</sup>/ [li<sup>53</sup>] <礼> 「礼」  
 /ŋ/: /ŋa<sup>35</sup>/ [ŋa<sup>35</sup>] <轧> 「押し合う」 /ŋan<sup>35</sup>/ [ŋən<sup>35</sup>] <安> 「取り付ける」  
 /ŋo<sup>53</sup>/ [ŋo<sup>53</sup>] <我> 「わたし」 /ŋai<sup>21</sup>/ [ŋai<sup>21</sup>] <爱> 「愛する」  
 /ŋi<sup>31</sup>/ [ŋi<sup>31</sup>] <泥> 「どろ」 /ŋia<sup>35</sup>/ [ŋia<sup>35</sup>] <諷> 「甘える」  
 /ŋian<sup>35</sup>/ [ŋian<sup>35</sup>] <研> 「研究する」

### 【摩擦音】

/f/: /fu<sup>35</sup>/ [fu<sup>35</sup>] <夫> 「夫」 /fe<sup>35</sup>/ [fei<sup>35</sup>] <飞> 「飛ぶ」  
 /faŋ<sup>35</sup>/ [faŋ<sup>35</sup>] <方> 「四角」 /foŋ<sup>35</sup>/ [foŋ<sup>35</sup>] <风> 「風」  
 /s/: /si<sup>35</sup>/ [sɿ<sup>35</sup>] <诗> 「詩」 /sa<sup>35</sup>/ [sa<sup>35</sup>] <沙> 「砂」  
 /sa<sup>23</sup>/ [sæ<sup>23</sup>] <杀> 「殺す」 /si<sup>23</sup>/ [sɿ<sup>23</sup>] <十> 「十」  
 /z/: /zu<sup>53</sup>/ [zu<sup>53</sup>] <乳> 「ミルク」 /zu<sup>23</sup>/ [zɯ<sup>23</sup>] <肉> 「肉」  
 /zen<sup>31</sup>/ [zən<sup>31</sup>] <人> 「ひと」 /zaŋ<sup>21</sup>/ [zaŋ<sup>21</sup>] <让> 「譲る」  
 /x/: /xo<sup>35</sup>/ [xo<sup>35</sup>] <喝> 「飲む」 /xau<sup>53</sup>/ [xau<sup>53</sup>] <好> 「良い」  
 /xan<sup>35</sup>/ [xan<sup>35</sup>] <憨> 「ばかである」 /xia<sup>35</sup>/ [ɕia<sup>35</sup>] <虾> 「海老」  
 /xian<sup>35</sup>/ [ɕian<sup>35</sup>] <先> 「さき」 /xia<sup>23</sup>/ [ɕiæ<sup>23</sup>] <瞎> 「盲目」  
 /xy<sup>35</sup>/ [ey<sup>35</sup>] <虚> 「気が引ける」

### 2.2.3 C<sub>2</sub> (末子音)

瀘州方言では、/-n/と/-ŋ/の2種の末子音が存在する。

/-n/と母音との結合関係は以下の通りである。

/-an/ [an], /-en/ [en], /-in/ [in], /-yn/ [yn], /-un/ [un], /-yan/ [yan], /-ian/ [ian], /-uan/ [uan]

【注意点】/un/: 子音と結合しない場合、音声的に[<sup>w</sup>ən]として実現する。

具体例を以下に掲げる。

/-an/: /pan<sup>35</sup>/ [pan<sup>35</sup>] <搬> 「運ぶ」 /phan<sup>31</sup>/ [p<sup>h</sup>an<sup>31</sup>] <盘> 「皿」  
 /ŋan<sup>31</sup>/ [ŋan<sup>31</sup>] 「推測する」 /tan<sup>35</sup>/ [tan<sup>35</sup>] <摊> 「分担する」  
 /-en/: /ŋen<sup>35</sup>/ [ŋən<sup>35</sup>] <恩> 「恩」 /tsen<sup>35</sup>/ [tsən<sup>35</sup>] <针> 「針」  
 /sen<sup>35</sup>/ [sən<sup>35</sup>] <身> 「体」 /fen<sup>35</sup>/ [fən<sup>35</sup>] <分> 「分ける」  
 /-in/: /in<sup>35</sup>/ [i:n<sup>35</sup>] <阴> 「こっそり」 /pin<sup>35</sup>/ [pin<sup>35</sup>] <冰> 「氷」



	/phin <sup>31</sup> / [p <sup>h</sup> m <sup>31</sup> ] <平> 「ひら」	/xin <sup>53</sup> / [ɛm <sup>53</sup> ] <醒> 「覚める」
/-yn/:	/yn <sup>31</sup> / [yn <sup>31</sup> ] <云> 「雲」	/teyn <sup>35</sup> / [tɛyn <sup>35</sup> ] <均> 「等しくする」
	/xyn <sup>21</sup> / [ɛyn <sup>21</sup> ] 「吐く」	/tehyn <sup>31</sup> / [tɛ <sup>h</sup> yn <sup>31</sup> ] <群> 「群れる」
/-un/:	/xun <sup>35</sup> / [xun <sup>35</sup> ] <昏> 「意識を失う」	/sun <sup>21</sup> / [sun <sup>21</sup> ] <順> 「順調」
	/khun <sup>21</sup> / [k <sup>h</sup> un <sup>21</sup> ] <困> 「眠い」	/un <sup>35</sup> / [wən] <瘟> 「えやみ」
/-yan/:	/yan <sup>31</sup> / [yan <sup>31</sup> ] <圓> 「まるで」	/tehyan <sup>31</sup> / [tɛ <sup>h</sup> yan <sup>31</sup> ] <全> 「すべて」
	/xyan <sup>21</sup> / [ɛyan <sup>21</sup> ] 「臨時的」	/teyan <sup>35</sup> / [tɛyan <sup>35</sup> ] <捐> 「寄付する」
/-ian/:	/ian <sup>35</sup> / [ian <sup>35</sup> ] <烟> 「タバコ」	/nian <sup>31</sup> / [lian <sup>31</sup> ] <连> 「つながる」
	/ŋian <sup>31</sup> / [ŋian <sup>31</sup> ] <严> 「厳しい」	/pian <sup>35</sup> / [pian <sup>35</sup> ] <边> 「～のへり」
/-uan/:	/uan <sup>35</sup> / [uən <sup>35</sup> ] <弯> 「曲がっている」	
	/xuan <sup>31</sup> / [xuən <sup>31</sup> ] <还> 「返す」	/tuan <sup>35</sup> / [tuən <sup>35</sup> ] <端> 「持つ」
	/tshuan <sup>35</sup> / [tʂ <sup>h</sup> uən <sup>35</sup> ] <川> 「かわ」	

/-ŋ/と母音との結合例は次のようなものである。

	/-aŋ/ [aŋ], /-oŋ/ [oŋ], /-uaŋ/ [uaŋ], /-iaŋ/ [iaŋ], /-yoŋ/ [yoŋ]	
/-aŋ/:	/paŋ <sup>35</sup> / [paŋ <sup>35</sup> ] <帮> 「手伝う」	/phaŋ <sup>53</sup> / [p <sup>h</sup> aŋ <sup>53</sup> ] 「丸ごとの豚肉」
	/maŋ <sup>35</sup> / [maŋ <sup>31</sup> ] <忙> 「忙しい」	/tsaŋ <sup>53</sup> / [tʂaŋ <sup>53</sup> ] <长> 「伸びる」
/-oŋ/:	/poŋ <sup>35</sup> / [poŋ <sup>35</sup> ] <崩> 「砕ける」	/foŋ <sup>35</sup> / [foŋ <sup>35</sup> ] <风> 「かぜ」
	/thoŋ <sup>31</sup> / [t <sup>h</sup> oŋ <sup>31</sup> ] <同> 「同じ」	/xoŋ <sup>31</sup> / [xoŋ <sup>31</sup> ] <红> 「赤い」
/-uaŋ/:	/uaŋ <sup>35</sup> / [uaŋ <sup>35</sup> ] <汪> 「苗字」	/kuaŋ <sup>35</sup> / [kuaŋ <sup>35</sup> ] <光> 「ひかり」
	/xuaŋ <sup>31</sup> / [xuəŋ <sup>31</sup> ] <黄> 「黄色い」	/tshuaŋ <sup>31</sup> / [tʂ <sup>h</sup> uaŋ <sup>31</sup> ] <床> 「ベッド」
/-iaŋ/:	/iaŋ <sup>35</sup> / [iaŋ <sup>35</sup> ] <央> 「願う」	/teiaŋ <sup>35</sup> / [tɛiaŋ <sup>35</sup> ] <江> 「大きな川」
	/xiaŋ <sup>31</sup> / [ɕiaŋ <sup>31</sup> ] <详> 「詳しい」	/ŋiaŋ <sup>31</sup> / [ŋiaŋ <sup>31</sup> ] <娘> 「母親」
/-yoŋ/:	/yoŋ <sup>21</sup> / [yoŋ <sup>21</sup> ] <用> 「使う」	/xyoŋ <sup>35</sup> / [ɕyoŋ <sup>35</sup> ] <兄> 「兄」
	/tehyoŋ <sup>31</sup> / [tɛ <sup>h</sup> yoŋ <sup>31</sup> ] <穷> 「貧しい」	

## 2.3 母音

### 2.3.1 母音音素

瀘州方言の母音体系について、李(1997)では、母音音素は/ɣ/, /i/, /u/, /y/, /a/, /o/, /e/, /ə/の八つを認めている。李の指摘によれば、/ɣ/と結合できる子音は、/ts/, /tsh/, /s/, /z/である。他方、/i/と結合できる子音は、/p/, /ph/, /m/, /t/, /th/, /n/, /te/, /teh/, /ŋ/, /ɕ/, /kh/, /θ/である。しかし、例えば、/sɣ/と/si/は、特に意味的な違いがなく、最小対になっていない。よって、李(1997)の/ɣ/と/i/は異なる音素として立てる必要がないと考えられる。また、/e/と/ə/は先行研究において、二重母音と三重母音に/ə/が記述されているが、単母音の記述に出現していない。よって、/e/と/ə/

も異なる音素として立てる必要がない。

このほか、瀘州方言の23調を用いる字音について、母音の音声実現は舌位が変わる。この点について、第3節でまとめて述べる。

瀘州方言の母音体系について、表3のとおりである。音節構造の各スロットに入る具体的な母音、及び注意点に関して以下で述べる。

表3: 母音音素一覧

i y		u
e		o
( $\text{æ}$ )		
a		

### 2.3.2 V<sub>1</sub> 単母音

単母音は前舌母音と後舌母音の2種のグループに分かれる。

前舌母音：/i/ [i], /y/ [y], /e/ [ei]

後舌母音：/a/ [a], /u/ [u], /o/ [o]

以下、注意点について述べる。

/i/は多くは[i]で発音される。しかし、子音/ts/, /tsh/, /s/, /z/と結合した際、声調によっては音声的な実現に差異を生じる。23調以外の場合では、音声的には[ɿ]として実現し、23調の場合では、音声的には[ɿ]として実現する。ただし、実際には、/z/と/-i/の結合は23調のみである。23調について、/ts/, /tsh/, /s/, /z/以外の子音と結合する際、音声的には[i]として実現する。

/e/の音声実現については、23調以外の場合、音声的に[i]が後続し、聴覚的には[ei]として聞こえる。しかし、瀘州方言では、[e]と[ei]の区別が存在しない。従って、/e/を音素として立てる。23調の場合では、音声的には[ $\text{e}$ ]に聞こえる。

/a/は23調の場合では、[ $\text{æ}$ ]として音声的に実現する。それ以外の声調では音声的に[a]で実現する。

/u/では23調の場合では、[ $\text{u}$ ]として音声的に実現する。それ以外の声調では音声的に[u]で実現する。

/o/が23調の場合では、[ $\text{o}$ ]として音声的に実現する。それ以外の声調では音声的に[o]で実現する。

具体例を以下に掲げる。

#### [前舌母音]

/i/: /xi<sup>31</sup>/ [ei<sup>31</sup>] <邪> 「たたり」

/si<sup>35</sup>/ [sɿ<sup>35</sup>] <撕> 「やぶる」

	/si <sup>23</sup> / [ʃi <sup>23</sup> ] <十> 「十」	/zi <sup>23</sup> / [ʒi <sup>23</sup> ] <日> 「太陽」
	/i <sup>35</sup> / [i <sup>35</sup> ] <医> 「治療する」	/i <sup>23</sup> / [i <sup>23</sup> ] <一> 「一」
/y/:	/y <sup>31</sup> / [y <sup>31</sup> ] <魚> 「魚」	/tey <sup>35</sup> / [tey <sup>35</sup> ] <居> 「住み」
	/xy <sup>53</sup> / [ey <sup>53</sup> ] <許> 「許す」	/tehy <sup>35</sup> / [tehy <sup>35</sup> ] <区> 「区」
/e/:	/pe <sup>35</sup> / [pei <sup>35</sup> ] <杯> 「コップ」	/me <sup>21</sup> / [mei <sup>21</sup> ] <妹> 「妹」
	/pe <sup>23</sup> / [pə <sup>23</sup> ] <北> 「北」	/tse <sup>35</sup> / [tsei <sup>35</sup> ] <遮> 「遮る」

### 〔後舌母音〕

/a/:	/pa <sup>35</sup> / [pa <sup>35</sup> ] <粍> 「米で作るお菓子」	
	/pha <sup>31</sup> / [pha <sup>31</sup> ] <爬> 「はう」	/na <sup>23</sup> / [la <sup>23</sup> ] <辣> 「辛い」
	/pa <sup>23</sup> / [pə <sup>23</sup> ] <八> 「八」	
/u/:	/pu <sup>21</sup> / [pu <sup>21</sup> ] <布> 「ぬの」	/mu <sup>53</sup> / [mu <sup>53</sup> ] <母> 「雌」
	/u <sup>35</sup> / [w <sup>u</sup> 35] <烏> 「黒い」	/mu <sup>23</sup> / [mu <sup>23</sup> ] <木> 「しびれる」
/o/:	/o <sup>35</sup> / [w <sup>o</sup> 35] <廁> 「(大小便) をする」	
	/ko <sup>35</sup> / [ko <sup>35</sup> ] <鍋> 「なべ」	/mo <sup>35</sup> / [mo <sup>35</sup> ] <摸> 「さわる」
	/ŋo <sup>53</sup> / [ŋo <sup>53</sup> ] <我> 「私」	/ŋo <sup>23</sup> / [ŋo <sup>23</sup> ] <惡> 「悪い」

### 2.3.3 V<sub>2</sub> 二重母音

二重母音は次の 10 種が存在する。

/ia/ [ia], /ie/ [iə], /iu/ [iu], /ua/ [ua], /ui/ [ui], /ye/ [yə], /yo/ [yø], /-ou/ [əu], /-au/ [au], /-ai/ [ai]

ただし、/ie/, /ye/, /yo/ の三つの二重母音について、23 調にしか現れない。

以下、注意点について述べる。

/ia/: 23 調の場合では、音声的に [iæ] として実現する。それ以外の声調は音声的に [ia] として実現する。

/ie/: 23 調の場合にしか現れない。音声的に [iə] として実現する。

/iu/: 子音と結合しない場合、音声的に渡り音 [ə] が生じ、[iəu] として実現しやすい。

/ua/: 23 調の場合では、音声的に [wæ] として実現する。それ以外の声調は音声的に [ua] として実現する。

/ui/: 23 調の場合では、音声的に [wə] として実現する。子音と結合しない場合、音声的に [wei] として実現する傾向にある。子音は /n/ の場合、音声的に [uei] として実現する傾向にある。

/ye/: 23 調にしか現れない。音声的に [yə] として実現する。

/yo/: 23 調にしか現れない。音声的に [yø] として実現する。

/-ou/: /o/ は後続する /u/ の影響を受けて、狭くなる傾向があり、音声的に [-əu] と

して実現しやすい。

具体例は下記のようになる。

/-ia/:	/teia <sup>35</sup> / [teia <sup>35</sup> ] <家> 「いえ」	/teia <sup>23</sup> / [teia <sup>23</sup> ] <夹> 「挟む」
	/ia <sup>31</sup> / [ia <sup>31</sup> ] <牙> 「歯」	/ia <sup>23</sup> / [ia <sup>23</sup> ] <鴨> 「カモ」
/-ie/:	/ie <sup>23</sup> / [ie <sup>23</sup> ] <叶> 「葉っぱ」	/pie <sup>23</sup> / [pie <sup>23</sup> ] <別> 「別れる」
	/tehie <sup>23</sup> / [tehie <sup>23</sup> ] <切> 「切る」	/xie <sup>23</sup> / [xie <sup>23</sup> ] <歇> 「休む」
/-iu/:	/tiu <sup>35</sup> / [tiu <sup>35</sup> ] <丢> 「捨てる」	/niu <sup>31</sup> / [niu <sup>31</sup> ] <牛> 「うし」
	/iu <sup>53</sup> / [iu <sup>53</sup> ] <友> 「友人」	/xiu <sup>35</sup> / [xiu <sup>35</sup> ] <修> 「修理する」
/-ua/:	/kua <sup>35</sup> / [kua <sup>35</sup> ] <瓜> 「ウリ(総称)」	/xua <sup>35</sup> / [xua <sup>35</sup> ] <花> 「はな」
	/xua <sup>23</sup> / [xua <sup>23</sup> ] <滑> 「つるつるしている」	
/-ui/:	/tui <sup>35</sup> / [tui <sup>35</sup> ] <堆> 「積む」	/nui <sup>31</sup> / [nui <sup>31</sup> ] <雷> 「かみなり」
	/kui <sup>35</sup> / [kui <sup>35</sup> ] <归> 「帰る」	/kui <sup>23</sup> / [kui <sup>23</sup> ] <国> 「くに」
/-ye/:	/ye <sup>23</sup> / [ye <sup>23</sup> ] <月> 「月」	/xye <sup>23</sup> / [xye <sup>23</sup> ] <雪> 「ゆき」
/-yo/:	/yo <sup>23</sup> / [yo <sup>23</sup> ] <药> 「薬」	/xyo <sup>23</sup> / [xyo <sup>23</sup> ] <学> 「学び」
/-ou/:	/thou <sup>35</sup> / [thou <sup>35</sup> ] <偷> 「盗む」	/kou <sup>35</sup> / [kou <sup>35</sup> ] <勾> 「引っかける」
	/ŋou <sup>53</sup> / [ŋou <sup>53</sup> ] <藕> 「レンコン」	/khou <sup>35</sup> / [khou <sup>35</sup> ] <抠> 「ほじくる」
/-au/:	/ŋau <sup>53</sup> / [ŋau <sup>53</sup> ] <咬> 「かむ」	/thau <sup>35</sup> / [thau <sup>35</sup> ] 「しかる」
	/pau <sup>35</sup> / [pau <sup>35</sup> ] <包> 「包む」	/tau <sup>35</sup> / [tau <sup>35</sup> ] <刀> 「ナイフ」
/-ai/:	/ŋai <sup>53</sup> / [ŋai <sup>53</sup> ] <矮> 「低い」	/khai <sup>35</sup> / [khai <sup>35</sup> ] <开> 「開く」
	/nai <sup>31</sup> / [nai <sup>31</sup> ] <来> 「来る」	/kai <sup>35</sup> / [kai <sup>35</sup> ] <街> 「町」

### 2.3.4 V<sub>3</sub> 三重母音

三重母音は次の3種が存在する。

/-iau/, /-iai/, /-uai/

上記の3種の三重母音に対して、まず、/-iai/を説明する。瀘州方言では、/-iai/の出現例が極めて少ない。また、子音の/te/と/x/としか結合しない。

/-iai/に用いる字について、以下の表4のようにまとめることができる。

表4: 三重母音/-iai/に関する漢字

	35 調	31 調	53 調	21 調	23 調
te	街, 阶, 皆		解(解釈する)	界, 介, 芥, 届	
x		谐		解 <sup>4</sup> , 蟹	

<sup>4</sup> この発音は苗字のみ出現する。

上記表4の漢字に関しては、広韻までさかのぼれば、全て蟹摂開口二等見組字と蟹摂開口二等匣組字に分類されている。

瀘州方言の三重母音/-iai/を持つ例の大多数は漢語普通話を由来とすると考えられる。平山久雄(1967)の中古音に対する音価推定では、蟹摂開口二等見組字と蟹摂開口二等匣組字の韻母に該当する推定音価は[ai]或いは[ei]と指摘されている。そして、これらの漢字は北方方言では多くで口蓋化が生じ、漢語普通話では口蓋化子音として組み込まれている。しかし、恐らく瀘州方言ではその口蓋化が起こらず、そのまま現在まで保持していると考えられる。ただし、近年、漢語普通話の影響を受け、子音と介音、更に声調を借用し、/iai/のような母音が形成された。/iai/という三重母音は漢語普通話のように口蓋化が起こったゆえに形成されたものと考えにくい。その原因について「街」を意味する“街”の字と「カニ」を意味する“蟹”の字を用いながら以下で説明する。

表5: “街”と“蟹”の音価対比<sup>5</sup>

	瀘州方言 1	瀘州方言 2	漢語普通話
<街>「町」	/kai <sup>35</sup> / [kai <sup>35</sup> ]	/teiai <sup>35</sup> / [teiai <sup>35</sup> ]	{jiē} [tɕje <sup>55</sup> ]
<蟹>「カニ」	/xai <sup>53</sup> / [xai <sup>53</sup> ]	/xiai <sup>21</sup> / [ɕiai <sup>21</sup> ]	{xiè} [ɕje <sup>51</sup> ]

表5に示す通り、瀘州方言の“街”は二種の発音がある。/teiai<sup>35</sup>/の形成について、漢語普通話の子音[tɕ]と介音[j]を借用し、[tejai]になる。そして、後続する母音[ai]の影響により、[j]がより広く発音され、故に[teiai]になった。また、漢語普通話の“街”も第一声であるため、最終的に“街”が[teiai<sup>35</sup>]も用いると推定される。ただし、実際の日常会話では、ほとんどの場合は、/kai<sup>35</sup>/を用い、/teiai<sup>35</sup>/を用いる場合は極めて少ない。/teiai<sup>35</sup>/が出現したとしても、例えば漢字を指しながら読ませる場合、つまり文読の場合など非常に限られている環境でしか現れない。

従って、“蟹”も同様に、子音[ɕ]と介音[j]を借用することによって、[ɕiai]になる。また、漢語普通話の“蟹”は第4声であるため、瀘州方言も第4声を取り、最終的に瀘州方言の“蟹”を[ɕiai<sup>21</sup>]になった。ただし、この字の使用も非常に限られている。日常口語の中、「カニ」を言う際、伝統的な音声形式は[p<sup>h</sup>a<sup>21</sup> xai<sup>53</sup>]である。近年、[p<sup>h</sup>aŋ<sup>31</sup> ɕiai<sup>21</sup>]のような言い方で「カニ」を表現することも出現し

<sup>5</sup> 瀘州方言には文白異読の現象が存在する。いわゆる一つの漢字に対して、文読音(読書音)と白読音(口語音)がそれぞれ存在する。表5の「瀘州方言1」は白読音であり、「瀘州方言2」は文読音だと考えられる。

ている。特に、[eiai<sup>21</sup>]は単独では出現せず、[eiai<sup>21</sup>]を使用する場合、必ず[p<sup>h</sup>aŋ<sup>31</sup>]と共起する。漢語普通話の「カニ」と言う語彙を用いる際の音声実現は[p<sup>h</sup>aŋ<sup>35</sup>eje<sup>51</sup>]のため、瀘州方言の[p<sup>h</sup>aŋ<sup>31</sup>eiai<sup>21</sup>]は紛れもなく、漢語普通話からの借用であると考えられる。

三重母音に関する具体例は下記のようなになる。

/-iau/:	/iau <sup>35</sup> / [iau <sup>35</sup> ] <腰> 「腰」	/pia <sup>53</sup> / [pia <sup>53</sup> ] <表> 「腕時計」
	/nia <sup>21</sup> / [lia <sup>21</sup> ] <料> 「測る」	/ŋia <sup>21</sup> / [ŋia <sup>21</sup> ] <尿> 「小便」
/-iai/:	/teiai <sup>35</sup> / [teiai <sup>35</sup> ] <街> 「町」	/xiai <sup>21</sup> / [eiai <sup>21</sup> ] <蟹> 「カニ」
/-uai/:	/uai <sup>35</sup> / [uai <sup>35</sup> ] <歪> 「傾ける」	/kuai <sup>35</sup> / [kuai <sup>35</sup> ] <乖> 「大人しい」
	/khuai <sup>21</sup> / [k <sup>h</sup> uai <sup>21</sup> ] <快> 「速い」	/xuai <sup>31</sup> / [xuai <sup>31</sup> ] <怀> 「妊娠する」

### 2.3.5 母音はじまりの音節

瀘州方言では、母音始まりの音節が存在し、V<sub>1</sub>は/a/と/e/の場合及び二重母音/ou/, 三重母音/iai/の場合のみ存在しない。そのうち、/un/, /ui/, /iu/の三つの場合に関して、ゼロ子音の場合、二つの母音間に渡り音が生じやすい。/u/を始まる音節に関して、語頭の[u]は[w]として実現する傾向にある。

/un/: [ə]が渡り音としてよく挿入され、音声的に[wən]として実現する傾向にある。

例：/un<sup>35</sup>/ [wən<sup>35</sup>] <温> 「温める」

/ui/: [e]が渡り音としてよく挿入され、音声的に[weɪ]として実現する傾向にある。

例：/ui<sup>35</sup>/ [weɪ<sup>35</sup>] <微> 「小さい」

/iu/: [ə]が渡り音としてよく挿入され、音声的に[iəu]として実現する傾向にある。

例：/iu<sup>31</sup>/ [iəu<sup>31</sup>] <油> 「油」

上記の三つの母音以外の例は下記のようなである。

/y <sup>31</sup> / [y <sup>31</sup> ] <魚> 「魚」	/ia <sup>31</sup> / [ia <sup>31</sup> ] <牙> 「歯」
/i <sup>35</sup> / [i <sup>35</sup> ] <医> 「治療する」	/ye <sup>23</sup> / [ye <sup>23</sup> ] <月> 「月」
/yo <sup>23</sup> / [yo <sup>23</sup> ] <药> 「薬」	/ie <sup>23</sup> / [ie <sup>23</sup> ] <叶> 「葉っぱ」

### 2.3.6 /ə/について

瀘州方言は、/ə/が存在する。三つのタイプにまとめることができる。

第一のタイプは、単字音のレベルにおいて、子音と結合せず、[ə]として音

声的に実現するタイプである。この音声形式を用いる字は極めて少ない、具体例は以下の(1)のようになる。

- (1) 31 調: 儿, 而  
 53 調: 耳, 尔, 饵, 洱  
 21 調: 二

第二に、/ə/は接尾辞として出現する時、子音は硬口蓋音以外の場合、/ə/が直接子音の後ろの音節に置換されるタイプがある。子音は硬口蓋音の場合、子音の後ろに前舌狭母音[i], [y]を残し、後続する音節は/ə/に置換される。模式化すると(2)のとおりである。

- (2) C[-palatal]V + /ə/ → Cə  
 C[+palatal]V + /ə/ → CV[+close, +front]ə

例は(3)の通りである。

- (3) 「鶴」: <鶴>/xo<sup>23</sup>/ + <儿>/ə/ → <鹤儿>[xə<sup>23</sup>]  
 「皿」: <盘盘>/p<sup>h</sup>an<sup>31</sup>p<sup>h</sup>an<sup>31</sup>/ + <儿>/ə/ → <盘盘儿>[p<sup>h</sup>an<sup>31</sup>p<sup>h</sup>ə<sup>35</sup>]  
 「抽斗」: <抽抽>/ts<sup>h</sup>ou<sup>35</sup>ts<sup>h</sup>ou<sup>35</sup>/ + <儿>/ə/ → <抽抽儿>[ts<sup>h</sup>ou<sup>35</sup>ts<sup>h</sup>ə<sup>55</sup>]  
 「衝羽根」: <毬>/teian<sup>31</sup>/ + <儿>/ə/ → <毬儿>[te<sup>i</sup>ə<sup>31</sup>]  
 「くし」: <笠>/tehian<sup>35</sup>/ + <儿>/ə/ → <笠儿>[te<sup>hi</sup>ə<sup>31</sup>]

第三のタイプは母音をはじまりの音節と結合する時、母音を置換せず、/ə/をそのまま後続させるものである。模式化すると(4)のとおりである。

- (4) ...V + /ə/ > ...V + ə

例は(5)の通りである。

- (5) 「ガチョウ」: <鹅>/o<sup>31</sup>/ + <儿>/ə/ → <鹅儿>[o<sup>31</sup>ə<sup>35</sup>]  
 「カモ」: <鸭>/ia<sup>23</sup>/ + <儿>/ə/ → <鸭儿>[ia<sup>23</sup>ə<sup>35</sup>]

## 2.4 声調

瀘州方言の単音節レベルでは、35、31、53、21、23 の 5 種の声調素が認められる<sup>6</sup>。『音系』(1960)は瀘州方言の第一声調を 55 と記述したのに対し、李(1997)は 44 と記述している。李氏の説明では、この第一声調(陰平)の調値は高平調 55 と半高平調 44 の間ぐらいであるとするも、漢語普通話の陰平調より低いため、44 で記述している。しかし、筆者の調査では、年齢層に関わらず単音節レベルで、第一声調の上昇が明確に観察されるため、本稿では 35 調として整理する。音節単位で見られる声調素において注意すべき点は以下に説明しながらそれぞれの具体例を提示する。

35 調 (高上昇調) : [35~45]単独、あるいは語頭で発音する際、高いところまで上昇する。

/si<sup>35</sup>/ [sɿ<sup>35</sup>] <诗> 「詩」                      /i<sup>35</sup>/ [i:<sup>35</sup>] <衣> 「服」  
/faŋ<sup>35</sup>/ [faŋ<sup>35</sup>] <方> 「方向」                  /tʰian<sup>35</sup>/ [tʰian<sup>35</sup>] <天> 「天」

31 調 (中下降調) : [32~31]中間から下降する声調である。

/si<sup>31</sup>/ [sɿ<sup>31</sup>] <时> 「時間」                      /i<sup>31</sup>/ [i:<sup>31</sup>] <移> 「移動する」  
/faŋ<sup>31</sup>/ [faŋ<sup>31</sup>] <房> 「家」                      /tʰian<sup>31</sup>/ [tʰian<sup>31</sup>] <甜> 「甘い」

53 調 (高下降調) : [53~42] 高いところから落ちる。

/si<sup>53</sup>/ [sɿ<sup>53</sup>] <使> 「使役」                      /i<sup>53</sup>/ [i:<sup>53</sup>] <以> 「~をする」  
/faŋ<sup>53</sup>/ [faŋ<sup>53</sup>] <仿> 「まねる」                  /tʰian<sup>53</sup>/ [tʰian<sup>53</sup>] <舔> 「舐める」

21 調 (低平調) : [21~12] 5 種の中で、ピッチが一番低い。実現としては、上昇と下降があり、かなり不安定である。後部要素が付加される場合、やや上昇することもある。

/si<sup>21</sup>/ [sɿ<sup>21</sup>] <事> 「物事」  
/si<sup>21</sup>/ <事> + /tein<sup>31</sup>/ <情> → [sɿ<sup>12</sup>tein<sup>31</sup>] <事情>  
/i<sup>21</sup>/ [i:<sup>21</sup>] <易> 「やさしい」                  /faŋ<sup>21</sup>/ [faŋ<sup>21</sup>] <放> 「放す」  
/tian<sup>21</sup>/ [tian<sup>21</sup>] <店> 「店」

23 調 (低上昇調) : [23]低いところから上昇する声調である。

/si<sup>23</sup>/ [sɿ<sup>23</sup>] <十> 「十」                      /i<sup>23</sup>/ [i:<sup>23</sup>] <一> 「一」  
/pe<sup>23</sup>/ [pə<sup>23</sup>] <北> 「北」                      /fa<sup>23</sup>/ [fæ<sup>23</sup>] <发> 「発する」

李(1997)によれば、瀘州方言は入声の調類があり、ただし音節末子音の内

<sup>6</sup> 瀘州方言では連読する際、新たに高平調 55 を観察できる。但し、第一音節にはこの声調を見られない。この現象について今後の課題にしたい。



破音または声門閉鎖の部分がない。つまり、中古漢語の段階で音節末子音[-p], [-t], [-k]などの内破音或いは声門閉鎖音の[ʔ]を持つと考えられる入声字に関して、漢語普通話のように韻尾を失い、舒声の声調に合流するのと異なり、瀘州方言では調値の違いとして残っている。本稿では、中古漢語の入声字に関して、音節末子音の内破音或いは声門閉鎖音の[ʔ]を既に失った後に現れたこの声調を「入声」と呼ぶことに合理性がないと考える。従って、本稿はこの声調を「23調」と呼ぶこととする。ただし、瀘州方言では、23調は、非23調との間で分節音の音声実現において差異が見られる。第3節では、この23調における分節音の音声実現について述べる。

### 3. 23調における分節音の音声実現

前節に述べた通り、瀘州方言の23調における分節音の音声実現は非23調とは明らかに異なる。

第1章の表1に示す通り、瀘州方言の音韻体系について、四つの先行研究の中、韻母の数は二つの説がある。『音系』で記述される韻母は41種があるのに対し、李(1997)では37種が記述されている。その原因は、全て第5声調の23調と関わっている。

まず、二つの先行研究に記述している母音音素を確認する。『音系』(1960)に描写している母音音素は/a/, /æ/, /i/, /u/, /y/, /o/, /ø/, /e/, /ɣ/, /ə/の10種であるのに対し、李(1997)が記述している母音音素は/ɣ/, /i/, /u/, /y/, /a/, /o/, /e/, /ə/の8種である。『音系』(1960)の記述によると、瀘州方言の/a/と/æ/を二つの独立の韻類として認め、/a/, /æ/, /ia/, /iã/, /ua/, /uã/の六つの韻母を音韻体系において区別する。そして、“思、詩”の韻母は/ɣ/で記述し、“尺”の韻母は/ə/である。

李(1997)によれば、/e/, /ie/, /ue/, /uə/, /yə/, /ye/の6種の韻は入声字しかなく、/ɣ/, /i/, /u/, /a/, /ia/, /ua/の6種の韻は舒声と入声の両方とも持つことを述べている。/ɣ/と結合できる子音は：/ts/, /tsh/, /s/, /z/であり、入声の条件では、/ɣ/は[ʔ]として実現しやすい。/a/は単母音として生起する時、及び/ia/, /ua/の2種の韻母のように主母音として生起する場合、入声においては、音声交替が起こり、[æ]になると記述している。李(1997)によれば、/e/, /ie/, /ue/, /uə/, /yə/, /ye/は他の韻と関係なく、6種の母音を全て独立の韻母として音韻体系において認めていることである。そのうち、/uə/と唇音声母と結合する際、[ʔ]として実現する。また、李氏の記述によると、“思”と“尺”の韻母は同じく/ɣ/となっている。

『音系』の記述は母音と声調との結合関係を考えていない。李氏の記述における最大の問題点は各入声に出現する母音の処理が一貫していない点である。李氏は[a]と[æ]について、声調による音声交替と記述しているのに対し、/e/, /ie/,

/ue/, /ua/, /yø/, /ye/は声調との結合関係を考えず、6種の母音は全て独立の入声韻として音韻体系に認めている。

つまり、先行研究で韻母の数に大きな差異が見られる原因は、全て中古漢語の入声字における母音の音声実現の問題での処理が異なるからである。本稿では、23調における分節音の音声実現及び母音の仕組みを下記のように整理した。

/i/ → [i] / [-retroflex]_23	/i <sup>23</sup> / [iː <sup>23</sup> ] <一> 「一」
↙ [ɿ] / [+retroflex]_23	/tsi <sup>23</sup> / [tʂɿ <sup>23</sup> ] <直> 「まっすぐ」
/e/ → [ɐ] / _23	/pe <sup>23</sup> / [pɐ <sup>23</sup> ] <北> 「北」
/a/ → [æ] / _23	/na <sup>23</sup> / [næ <sup>23</sup> ] <辣> 「辛い」
/u/ → [u] / _23	/khu <sup>23</sup> / [k <sup>h</sup> u <sup>23</sup> ] <哭> 「泣く」
/o/ → [ø] / _23	/ŋo <sup>23</sup> / [ŋø <sup>23</sup> ] <恶> 「悪い」
/ia/ → [iæ] / _23	/xia <sup>23</sup> / [çiæ <sup>23</sup> ] <瞎> 「盲目」
/ie/ → [iɐ] / _23	/ie <sup>23</sup> / [iɐ <sup>23</sup> ] <叶> 「葉」
/ua/ → [wæ] / _23	/xua <sup>23</sup> / [x <sup>w</sup> æ <sup>23</sup> ] <滑> 「滑らかである」
/ui/ → [wɐ] / _23	/kui <sup>23</sup> / [k <sup>w</sup> ɐ <sup>23</sup> ] <国> 「国」
/ye/ → [yɐ] / _23	/ye <sup>23</sup> / [yɐ <sup>23</sup> ] <月> 「月」
/yo/ → [yø] / _23	/yo <sup>23</sup> / [yø <sup>23</sup> ] <药> 「薬」

上記の23調における分節音の音声実現の各現象について、大きく三つのタイプに分類することが可能である。次の節では、各タイプについて述べる。

### 3.1 母音中舌化

繰り返すが、瀘州方言の内部では、23調により、母音が中舌化する現象が見られる。

まず、/i/に関して説明する。非23調の場合、母音音素/i/は/ts/, /tsh/, /s/, /z/の四つの子音と結合する場合、/i/は[ɿ]として音的に実現する。23調の環境下で[ɿ]として実現する。上記の四つ以外の子音と結合する際及び子音と結合しない場合では、/i/の音声実現は[i]である。/u/は23調の場合は[u]として実現する。

23調の条件下、/e/は[ɐ]で実現し、/o/は[ø]で実現する。/ui/は23調で持つ場合では[wɐ]で実現している。

23調の場合と非23調の場合、それぞれ母音の音声実現上の対応関係は下記表6のようにまとめることができる。

表 6: 23 調と非 23 調の母音対応関係 1

母音音素	非 23 調		23 調	
/i/	[i]	/i <sup>35</sup> / [i: <sup>35</sup> ] <衣> 「服」	[i]	/i <sup>23</sup> / [i: <sup>23</sup> ] <一> 「一」
/u/	[u]	/khu <sup>35</sup> / [k <sup>h</sup> u <sup>35</sup> ] <枯> 「枯れる」	[u]	/khu <sup>23</sup> / [k <sup>h</sup> u <sup>23</sup> ] <哭> 「泣く」
/e/	[ei]	/pe <sup>35</sup> / [pei <sup>35</sup> ] <杯> 「コップ」	[ə]	/pe <sup>23</sup> / [pə <sup>23</sup> ] <北> 「北」
/o/	[o]	/ŋo <sup>53</sup> / [ŋo <sup>53</sup> ] <我> 「私」	[ə]	/ŋo <sup>23</sup> / [ŋə <sup>23</sup> ] <恶> 「悪い」
/ui/	[ui]	/kui <sup>35</sup> / [kui <sup>35</sup> ] <归> 「帰る」	[wə]	/kui <sup>23</sup> / [k <sup>w</sup> ə <sup>23</sup> ] <国> 「くに」

そして、/ie/, /ye/, /yo/の三つの母音に関して、二重母音として分節音のレベルで存在するが、23 調にしか出現しない。そして、23 調に伴って母音中舌化が存在する。実際の音声実現は表 7 に示すとおりである。

表 7: 23 調にしか出現しない母音

母音音素	音声実現	
/ie/	[iə]	/ie <sup>23</sup> / [iə <sup>23</sup> ] <叶> 「葉」
/ye/	[yə]	/ye <sup>23</sup> / [yə <sup>23</sup> ] <月> 「月」
/yo/	[yə]	/yo <sup>23</sup> / [yə <sup>23</sup> ] <药> 「薬」

### 3.2 a の上昇

瀘州方言に関して、23 調に伴って母音の音声交替は中舌化だけではなく、/a/ が上昇し、[æ]として音声的に実現している。そのような母音は三つがある。/a/, /ia/と/ua/である。23 調の場合、それぞれ対応する音声実現は[æ], [iæ], [uæ]になる。/a/を用いる母音の 23 調と非 23 調の対応関係は下記の表 8 のようにまとめることができる。

表 8: 23 調と非 23 調の母音対応関係 2

母音 音素	非 23 調		23 調	
/a/	[a]	/na <sup>31</sup> / [na <sup>31</sup> ] <拿> 「持つ」	[æ]	/na <sup>23</sup> / [læ <sup>23</sup> ] <辣> 「辛い」
/ia/	[ia]	/xia <sup>35</sup> / [eia <sup>35</sup> ] <吓> 「海老」	[iæ]	/xia <sup>23</sup> / [eia <sup>23</sup> ] <瞎> 「盲目」
/ua/	[ua]	/kua <sup>35</sup> / [kua <sup>35</sup> ] <瓜> 「ウリ (総称)」	[uæ]	/kua <sup>23</sup> / [kuæ <sup>23</sup> ] <刮> 「そる」

### 3.3 歯茎音のそり舌音

歯茎破擦音/ts/, /tsh/と歯茎摩擦音/s/, /z/について、23 調における後続する母音は/i/と/u/の場合、音声実現に関してそり舌音が観察される。

$$\begin{array}{ll}
 /ts/ \rightarrow [\widehat{t\text{ʃ}}] / \left. \begin{array}{l} i \\ u \end{array} \right\}^{23} & /tsh/ \rightarrow [\widehat{t\text{ʃ}^b}] / \left. \begin{array}{l} i \\ u \end{array} \right\}^{23} \\
 /s/ \rightarrow [\widehat{s}] / \left. \begin{array}{l} i \\ u \end{array} \right\}^{23} & /z/ \rightarrow [z] / \left. \begin{array}{l} i \\ u \end{array} \right\}^{23}
 \end{array}$$

調音の注意点について、子音を発音する際、舌根を引き、舌面を硬口蓋に持ち上げ、舌尖は歯茎の後ろに行かず、歯茎との間にわずかな隙間を作り、気流を通してている。

/ts/:	/tsi <sup>35</sup> / [tʃi <sup>35</sup> ] <知> 「知る」	/tsi <sup>23</sup> / [tʃi <sup>23</sup> ] <直> 「まっすぐ」
	/tsu <sup>35</sup> / [tʃu <sup>35</sup> ] <租> 「借りる」	/tsu <sup>23</sup> / [tʃu <sup>23</sup> ] <竹> 「竹」
	/tʃa <sup>23</sup> / [tʃæ <sup>23</sup> ] <杂> 「雑」	
/tsh/:	/tʃhi <sup>31</sup> / [tʃh <sup>31</sup> ] <雌> 「雌」	/tʃhi <sup>23</sup> / [tʃh <sup>23</sup> ] <吃> 「食べる」
	/tʃhu <sup>21</sup> / [tʃh <sup>21</sup> ] <醋> 「酢」	/tʃhu <sup>23</sup> / [tʃh <sup>23</sup> ] <出> 「出す」
	/tʃha <sup>23</sup> / [tʃhæ <sup>23</sup> ] <擦> 「拭く」	
/s/:	/si <sup>35</sup> / [ʃi <sup>35</sup> ] <诗> 「詩」	/si <sup>23</sup> / [ʃi <sup>23</sup> ] <十> 「十」
	/su <sup>23</sup> / [ʃu <sup>23</sup> ] <熟> 「熟成」	/su <sup>35</sup> / [su <sup>35</sup> ] 「肉を揚げること」
	/sa <sup>23</sup> / [sæ <sup>23</sup> ] <杀> 「殺す」	
/z/:	/zu <sup>53</sup> / [z <sup>53</sup> ] <乳> 「ミルク」	/zu <sup>23</sup> / [z <sup>23</sup> ] <肉> 「肉」
	/zi <sup>23</sup> / [z <sup>23</sup> ] <日> 「太陽」	/ze <sup>23</sup> / [z <sup>23</sup> ] <热> 「暑い」

23 調により、子音の音声実現においてそり舌音が観察できる漢字は、全ては中古音の段階でそり舌音であったと推定される。従って、そり舌音と非そり舌音の対立がない瀘州方言では、歯茎破擦音と歯茎摩擦音と母音/i/, /u/が結合する場合、23 調においてそり舌音が観察される理由は、漢語の古い特徴が保存されているとも解釈できるだろう。

#### 4.まとめと今後の課題

本稿では、現代漢語方言の一つである瀘州方言の音声及び音韻体系について、単音のレベルからの記述を行なった。瀘州方言では、子音音素に 17 種、母音音素に/a/を含めて 7 種、声調に 5 種を認める。そして、第 3 節は主に声調の 23 調における分節音の音声実現について簡単に紹介した。

瀘州方言では 23 調において、音声的に母音の中舌化、/a/の上昇、歯茎破擦音と歯茎摩擦音にそり舌音が見られるといった現象を確認することができる。しかし、これらの現象が起こす原因は紛れもなく、今後解明する必要がある重要な課題の一つである。また、周辺の方言に同様の現象が存在するかどうかを確認する必要がある。このほか、文のレベルにおける子音と声調の交替現象も存在する。これについても今後詳細な記述と分析を行なっていく予定である。

#### 参考文献

- 陈千百(2009)〈四川泸州方音概述〉《泸州职业技术学院学报》, 2009 年第 3 期。
- 平山久雄(1967)「中古漢語の音韻」牛島徳次等編『中国文化叢書 1 言語』東京:大修館書店。
- 李国正(1997)《四川瀘州方言研究》, 台北: 中華發展基金管理委員會、洪葉文化事業有限公司。
- 瀘州市地方志編纂委員会(1998)《瀘州市志》, 北京: 方志出版社。
- 四川方言调查工作指导组(1960)《四川方言音系》,《四川大学学报》社会科学版 1960 年第 3 期。
- 中国社会科学語言研究所(1981)《方言調查字表(修訂本)》, 北京: 商務印書館。
- 中国社会科学院(1988)《中国语言地图集》, 香港: 香港朗文出版。
- 周及徐(2012)〈南路话和湖广话的语音特点—兼论四川两大方言的历史关系〉《语言研究》, 2012 年第 3 期。

四川省人民政府のホームページ (<http://www.luzhou.gov.cn/sq/zjlz/xzqh>) [2022 年 5 月 28 日最終閲覧]